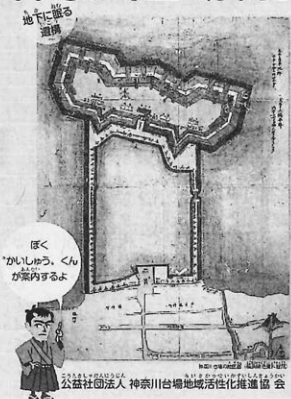


幕末の砲台場 冊子に

勝海舟が設計 1860年に完成

「神奈川台場物語」の表紙

神奈川台場物語



有志作製 小学校に寄贈へ

幕末の砲台場、神奈川台

場（横浜市神奈川区）の歴史を知ってもらおうと、市民有志が冊子「神奈川台場物語」を作製した。近隣3区（神奈川、西、中区）の公立小全37校の6年生向けに、2020年度までの3年間で1万冊を寄贈する。

神奈川台場は横浜港の防衛や祝砲、礼砲を放つための施設として勝海舟が設計、1860年に完成した。総面積は8千坪。1899年に廃止され、その後埋め立てられた。現在も地中で原形をどどめているとされ、地表に露出した石垣の一部を市などが保全して

いる。

冊子はA4判オールカラー32頁。製作費211万円は公益社団法人神奈川台場地域活性化推進協会が寄付でまかされた。豊富な古地図や古写真で台場の成り立ちを解説し、子どもと大人が一緒に歴史めぐりを楽しめる散策コースも載せた。

学区内に神奈川台場がある市立幸ヶ谷小学校で9月25日に贈呈式があり、協会が150冊を寄贈した。協会理事長を務める山本博士・三陽物産社長は「開港当時の建築物や記録の多くは関東大震災や横浜大空襲で失われてしまい、台場は貴

重な存在。横浜の発展を支えた歴史を知り、街に愛着を持ってほしい」と話す。冊子は副教材として各校で活用してほしいという。

一般向けには今月7日に

神奈川区の反町公園である「神奈川区民まつり」で、1冊300円で販売する。問い合わせは協会へメール (info@kanagawadai.ba.com) へ。(吉野慶祐)